市民ひろば5月企画

長野榮一さんに訊く「私の海軍履歴書」

5月31日、脱原発団体の代表や浜岡原発差し止め訴訟原告の代表を歴任した長野栄一さん（旧相良町生まれ）に市民ひろばにお越しいただき、海軍兵であった当時の貴重なお話を聴いた。

長野さんは開戦と同時に、二十歳の時に徴兵された。軍隊は志願兵と徴兵の２種類があった。徴兵は逃れることができないし、個人の意見は言えなかった。

海軍に配属され戦艦「長門」や空母「天城」の乗組員を務め、まもなく経理の仕事に回された。戦艦の中で実戦をやっているのは全体の１割で、あとはエンジンを動かしたり電気を起こしたり、食事作り等々であった。生野菜、水が貴重だった。洗濯や風呂に使う水は繰り返し使った。

船内アナウンスで戦艦、空母が次々と撃沈されるのがわかった。おびただしい数の人命が海底に沈んだ。やがて戦闘は飛行機が中心となり戦艦は無用の長物となった。戦死とはいっても、弾に当たって死ぬ人より病死、餓死のほうが多かった。

戦争末期、すでに敗色濃い戦況では無駄なことだったが、長野さんは戦艦「大和」を中心とする艦隊による「沖縄突入作戦」に動員された。だが、前日になって乗艦する「天城」のエンジンの故障で出撃は取りやめとなった。その時の沖縄特攻の犠牲者は４０３７人だった。

戦後、長野さんは、生き残った者は人のために生き続けるべきだとの思いを持ち続け、この20年間は浜岡原発反対運動に取り組んできた。

それが３・11福島原発震災以後の牧之原市長と議会の考えを１８０度変える結果となり、浜岡原発再稼働永久停止決議につながったとして、この日、有志により感謝の花束が贈呈された。

現政権の歴史認識について、「殴った人より殴られた人の方がいつまでも覚えているものだ。侵略された相手国の気持ちになって外交をすることが大事だ」と安倍首相を批判する。

戦地へ行ったのは、現在87歳以上の人になるそうだ。語り部は年々少なくなる。94歳にもなる長野さんは、本日2時間余を熱心に語ってくれた。長野さんの気持ちを無駄にしてはならない。（Ｓ）

92歳の時自費出版した「私の海軍履歴書」はアマゾン電子版で１０１７円

海軍時代の長野榮一氏（本人提供）

ＩＡＥＡが東電・行政の責任を指弾

福島原発事故最終報告書（案）を各国に配布

国際原子力機関（ＩＡＥＡ）は5月14日、福島第一原発事故を総括する最終報告書の要約版をまとめ、同日、加盟１５９国に配布したと発表した。４２ヶ国１８０人の専門家が作成したもので、チェルノブイリ以来世界最大の原子力事故を引き起こした諸要因を分析した。日本政府（外務省）にも届いているはずだが、まるで見当たらない。同日経産省ホームページに出たＩＡＥＡ最終報告書は、今後の事故収束や廃炉対策に関するもので、全くの別物だ。

だが、およそ10日後にウィーン共同通信の記者が内容を把握し配信、25日各地方紙に掲載された。静岡県でも静岡新聞、東京新聞（中日）が大きく報道した。それら報道によると、要約版は約２４０頁で事故原因の分析や、東電と日本の規制当局などの対応への評価が盛り込まれているという。

東電は原発事故の数年前、福島県沖でマグニチュード８・３の地震が起きれば、第一原発を襲う津波の高さが３・11と同等の約十五メートルに及ぶと試算していた。だが東電は対策を怠り、原子力安全・保安院も迅速な対応を求めなかった。原発で働く電力社員らは過酷事故に対する適切な訓練を受けておらず、津波による電源や冷却機能の喪失への備えも不足していた。原発事故と自然災害の同時発生に対応するための組織的な調整もなかった等々、東電や規制側にとって耳の痛いことが羅列されているようだ。

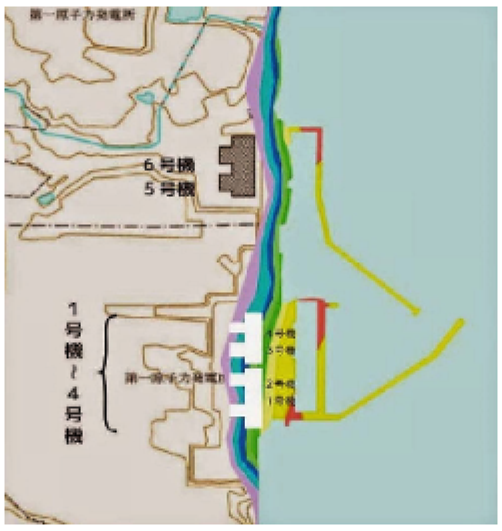
要約版は6月のＩＡＥＡ定例理事会で議論し、９月の年次総会には詳細な技術報告書（非公開）を提出する予定だ。

今頃報告書？と思われるかもしれない。しかし日本が早すぎた。事故後1年余、正味半年もかけずに政府、国会、民間の事故調査報告書が軒並み公表された。継続して調査すべきなのに、その後どこでも進められてはいない。

原子力の商業利用促進、軍事利用への転用防止を目的に設立されたＩＡＥＡによる報告書に、はたして6月の理事会、９月の総会でどのような修正が加えられるか注目だ。

また、これで最終報告とさせてはならない。被害はまだ始まったばかり、補償も満足に進んでいない。早くも１０３人の子どもたちの甲状腺がんが確定（5月18日現在）したにもかかわらず、ＩＡＥＡの要約版には事故の影響を否定するような見解や、トリチウムを含む汚染水の海洋放出を促すなどの問題点も見えるものの、事故原因に関しては常識的な指摘で、我が国内の非常識が浮き彫りとなりそうだ。

だが全国紙には、この共同の配信はおろか独自の分析も紹介も見当たらないのはどうしたものか。（Ａ）



福島第１原発の津波浸水予測図　1999年
（４月21日提出の福島原発告訴団上申書より抜粋）
東京地検は、大津波を予想できなかったとして東電の刑事責任を不起訴としたが、国土庁は1999年に福島第１原発１－４号機が１ｍ以上水没することを公表していた。設定波高８ｍ。予測図の制作は日本気象協会。

選挙に関心を呼ぶための提言

選挙公報の広報を

２０１５年の地方統一選挙が終わったが、投票率は低迷し続けている。

投票率低迷の原因を考えると、特に地方選挙では、候補者が見えにくいことがあげられる。

もちろん普段から市議会に市民の関心が行くようにしなければならないのだが、選挙時に候補者について知り得るものと言えば「選挙公報」がある。

新人を含むすべての候補者の情報を一覧でき、かつ比較できるので、普段選挙のことを強く意識していない有権者には便利な情報源といえる。三島市は選挙公報を新聞折込みで配布している。だが昨今は新聞購読をやめる家庭が増えており、選挙公報は市民に直接届きにくくなっている。

選挙公報は本来「全戸配布」が義務だが、「市区町村の選挙管理委員会」が「特別の事情がある」と届ければ、全世帯には配布しなくてもいいのだそうだ。

それについて三島市選管に取材したところ、「選挙公報」は告示後に印刷するため、選挙期間が短い市議選等は全戸配布である広報みしまの配布方法では間に合わない。そのため新聞折込の方法を採っており、配布されない人のためには公共施設等に置いているとのこと。

全国を見ると選挙公報は「新聞折込」から「全戸配布」に変わってきている。東京都では23区のうち14区が「全戸配布」に移行している。近隣市町に問い合わせたところ、裾野市と清水町のみがシルバー人材センター等による全戸配布で、沼津市、富士市、熱海市、伊豆の国市、函南町、長泉町等は新聞折込みとのことであった。

また、選管のホームページに掲載するようにと、三島市に提言したところ、２０１２年に総務省から同様の通知を受け、三島はじめ多数の市町で実施しているという。しかし、このことを知る市民はほとんどいないのではないか。公式ホームページのトップにも分かりやすく掲載すべきである。

◇

まず、各有権者に必ず郵送される「投票入場券」に「選挙公報」を掲示したホームページアドレスや入手方法を印刷し、投票率を上げる一助とすることを提言する。

（市議会とともに住みよい三島市をつくる会）

投稿

手をつなぐとき離すとき

大勢で一緒にやった方がいいものと一人でやった方がいいものがある。野球は一人ではできないし、バンジージャンプは一人で跳ばなければむしろ危険だ。

市民運動はどうだろう？小さな声は合わせる事によって大きな声となる。細い髪の毛も束になれば象も繋ぐというではないか。様々な団体やいろんなグループがそれぞれの活動をしているがそれはそれで良い。だが、声を合わせて訴えて、その一点だけでつながったら良い結果を出せるのではないだろうか。

先日、「大切な人を戦争に行かせない！」の意見広告を見た。そこには「三島」「９条」の言葉を冠した団体が８団体もあるのを知って驚いた。

それぞれ構成員や地域が異なるが、みな戦争に反対し９条を守ろうという基本は同じである。だからこそ一つの紙面に同じ意見広告を載せる一斉行動が毎年実現している。

反原発運動でも、「子供たちを守りたい」「愛するふるさとを放射能汚染から守りたい」「この国の安全を未来につなげたい」という思いは共通である。署名運動や街頭アピールなど思い思いの活動をするだけでなく、情報を共有し必要な時には協力し合って「ひとつの目標のため」手をつないだらよいのではないだろうか。もちろん、別の目標のときは、その手は離せばいい。

こんなふうに思っているのは、私だけでしょうか。みなさんはどう思われますか？

（Ｋ・Ｉ）

黄色いテントウムシ

斉藤静子

学校帰りの一年生
黄色いヘルメットかぶって
大きなランドセルをカタカタならし
おしゃべりしながら
きょうそうで
ボタン信号をおしている
耳にさわるほど
まっすぐに手をあげて
おもいっきりこえをはりあげ
「ありがとうございました」
ヘルメットが落ちそうに
ドライバーにおじぎをして
にぎやかに
黄色いテントウムシのパレードが
横断歩道を渡っていく

Curves 女性だけの 30 分 フィットネス
自分の健康は、自分で守り自分でつくる・・・☆
1回無料体験実施中!!
☆参加された方には、もれなくストレッチブックプレゼント！
カーブス三島大社町
三島市大社町18-7
小林ビル1F
055-976-3350
営業時間
月～金　10:00～19:00
土　10:00～13:00
日・祝　定休日
カーブス三島徳倉
三島市徳倉1-21-7
岩田ビル1F
055-988-9095

映画「日本と原発」
監督 河合弘之弁護士　2時間15分）
参加費　700円（できるだけ予約をお願いします）
いずれも土曜日 1時半から4時半（1時開場）
6月の予定　13日、20日
7月の予定　11日、25日
会場&主催　市民ひろば
問合先 FAX055-976-2656／TEL055-994-9211
メール yoyaku@shimin - hiroba.org

太陽光発電・オール電化・リフォーム（各種）のご用命は当店へ
デジタルショップ
ユキムラ電気
三島市東本町１丁目１５－２
TEL 055-971-1240